

---

 学 会 記 事
 

---

## 第 266 回新潟循環器談話会

日 時 平成 23 年 3 月 5 日 (土)  
午後 3 時～6 時  
会 場 新潟大学医学部 第 5 講義室

## I. 一 般 演 題

## 1 末梢血リンパ球数は高感度 CRP と独立に高 LDL コレステロール血症に関係する

小田 栄司

たちかわ総合健診センター

【背景】炎症と高 LDL コレステロール血症は動脈硬化の主要なメカニズムと考えられるが、末梢血白血球分画と LDL コレステロールとの関係を解析した研究は報告されていないと思われる。

【方法】健常な日本人男性 1,803 人と女性 1,150 人を対象として、高 LDL コレステロール血症、高中性脂肪血症、低 HDL コレステロール血症を別々に従属変数とし、総白血球数、好塩基球数、好酸球数、好中球数、リンパ球数、単球数を別々に独立変数として、年齢、BMI、高感度 CRP、喫煙、飲酒、身体活動で補正したロジスティック回帰を計算した。

【結果】男性では、高 LDL コレステロール血症のオッズ比は総白血球数、好酸球数、リンパ球数で、高中性脂肪血症のオッズ比は総白血球数、好酸球数、好中球数、リンパ球数で、低 HDL コレステロール血症のオッズ比は総白血球数、好中球数、リンパ球数で有意であり、女性では、高 LDL コレステロール血症のオッズ比はリンパ球数で、低 HDL コレステロール血症のオッズ比は好酸球数で有意であり、高中性脂肪血症のオッズ比はいずれの白血球数でも有意でなかった。

【結論】健常な日本人において、末梢血リンパ球数は高感度 CRP と独立に、高 LDL コレステロール血症と関係した。

【考察】高 LDL コレステロール血症に起因する動脈硬化病変の初期段階には、単球の担う自然免疫や炎症よりもリンパ球の担う獲得免疫の方が強く関与する可能性が示唆された。

## 2 エピルピシンの亜急性毒性により心不全を発症し左室壁在血栓および塞栓症をきたした 1 例

 大倉 裕二・岡田 義信・神林智寿子\*  
川崎 隆\*

 県立がんセンター新潟病院内科  
同 外科\*

症例は 42 歳，女性。

【主訴】起坐呼吸。

【経過】2008 年 11 月に左乳癌および骨転移と診断された。当院にて内分泌療法を施行されたのち、2009 年 8 月から化学療法 (EC 療法) を開始された。2010 年 6 月までに総量でエピルピシン 775mg/BSAm<sup>2</sup> を投与され、病変は縮小し腫瘍マーカーも正常化した。2010 年 7 月息切れで当科を受診。うっ血性心不全と診断され、エナラプリル、フロセミドが投与されたが、8 月に起坐呼吸で緊急入院した。NT-Pro BNP は 15,213pg/mL まで上昇し、トロポニン T 陽性が 5 週間続いた。LVEF は 20% まで低下し、左室に壁在血栓を形成、脾梗塞を発症した。生検では心筋炎像を認めた。ドブタミン静注後、ピモベンダン経口投与により LVEF は 40% まで回復した。10 週間の入院加療のち退院した。

【考察】アントラサイクリンの亜急性心毒性による心不全に壁在血栓・塞栓症を合併した症例は稀であり炎症の関与が示唆された。